

賛美の歌

第五集

藤本光夫

「賛美の歌第五集」に寄せて

ジエイ・ビー・カリ

「また異邦人も、あわれみのゆえに、神をあがめるようになるためです。こう書かれていますとおりです。『それゆえ、私は異邦人の中で、あなたをほめたたえ、あなたの御名をほめ歌おう。』」（ローマ人への手紙十五章九節）

普通の文章が何らかの事実——物事の表面的な姿やかたち——を伝えるものであるとすれば、詩はあらゆる文学形態の「心」にあたると言えます。知識を伝えるというよりも、むしろ人々の気持ち、人々の内面を表したものです。「詩はたましいの音楽である」ということばは間違いではありません。詩は、クリスチャンの世界でも非常に尊重されてきました。散文ではうまく表現できない思いも、詩であれば、感動的に表すことができるからです。

紀元前に書かれた旧約聖書の中にも、詩の形式でできている書卷が五つあります。その中の一つは詩篇です。この書卷は「千歳の聖歌集」と呼ばれています。三千年の間、これらの詩は、世界中で、人々の深い信仰を表すために歌われたものです。

敬愛する藤本光夫兄は、この長い伝統にしがたっておられます。ご兄弟は、主イエス・キリストに対する温かい愛をもって、父なる神の栄光を求めながら、多くの詩をお作りになりました。今回、「賛美の歌」の第五集を出版されることになりました。日本全国の信者たちにとって、大きな励ましと喜びになるに違いはないと思います。多くの人々から尊敬されておられるご兄弟の「愛の労苦」の上に、神様の豊かな祝福がごきますよう、お祈りいたします。

目次

もしこれらの賛美の歌によつて	一	賜物を働かせて	一四
イエス様のおかげで	二	不思議な出会い	一四
繋がるために	三	灯を明るくしてください	一五
尊き主との 釣り合わぬ軛に連なる幸いを想いて	四	今も激しく攻め来たる サタンに打ち勝たんことを願いて	一六
私の道で	五	どうして悟ることが	一七
十字架の主を想いて(一)	六	時を戻された神	一八
こころをくださった主	七	御国を呼び出すために	一八
御思いの通りに	七	何と幸いでしよう	一九
永遠の宝	八	苦難の中で	二〇
小さいままで	八	信仰の旅路も進みて	二一
闇はこれに勝たなかつた	九	困難を乗り越えて 信仰を全うせんことを願いて(一)	二二
そんな人になりたい	一〇	隠しても	二三
何を飾るか	一〇	執り成しの叫び	二四
導いてくださった	一一	十字架の主を讃えて(一)	二四
小鳥を見た	一二	神様の愛を担つて	二五
主の深きみこころを想いて(一)	一三	死者と生者を決めるもの	二五

狙っていますから・・・・・・・・二六
 心に決めたそのときから・・・・・・・・二七
 罪人に賜った信仰の幸いを
 想い巡らしつつ(一)・・・・・・・・二八
 人の悲しさ・・・・・・・・二九
 勝者・・・・・・・・三〇
 お用いください・・・・・・・・三〇
 心の中のナイフ・・・・・・・・三一
 神の全能の御力のすばらしさを歌いて・・・・・・・・三二
 心の道では(一)・・・・・・・・三三
 繋がっていた・・・・・・・・三四
 御手の中にあつた・・・・・・・・三四
 側におられました・・・・・・・・三五
 神様を認めないと・・・・・・・・三六
 救い主を讃えて(二)・・・・・・・・三七
 窓・・・・・・・・三八
 例える時・・・・・・・・三九
 苦しみを忍ぶ信仰の友を
 吾が身に照らし学ばんとして・・・・・・・・四〇
 私と共に歩まれる方・・・・・・・・四一

自分を知らない者のために・・・・・・・・四二
 立つておられる・・・・・・・・四四
 「さあ この人です」・・・・・・・・四五
 福音の証のために賜りし
 信仰の働かんことを願いて(二)・・・・・・・・四六
 御苦しみを越えて・・・・・・・・四七
 みこころを映している・・・・・・・・四八
 罪人への愛の証・・・・・・・・四九
 創造の神の深き知恵に驚く(一)・・・・・・・・五〇
 花・・・・・・・・五一
 賜物を働かせて・・・・・・・・五二
 この女を見ましたか・・・・・・・・五三
 主の御来臨を想いて(一)・・・・・・・・五四
 いざとなると・・・・・・・・五五
 私の主に近づくために・・・・・・・・五六
 主の御手にある幸いを歌う・・・・・・・・五六
 野花たち・・・・・・・・五七
 御言葉の深さを味わい
 みこころに従わんことを願いて・・・・・・・・五八
 一秒の大きさ・・・・・・・・五九

その大能のみわざのゆえに、
神をほめたたえよ。

そのすぐれた偉大さのゆえに、
神をほめたたえよ。

詩篇百五十篇二節

主の主　王の王に

とこしえに御栄えあれ

もしこれらの賛美の歌によつて

主よ

あなたがお教えくださつた

これらの賛美の歌草を通して

あなたの御愛の素晴らしさを学び

冷えきっていたたつた一つの魂でも

真の愛のぬくもりを

呼び醒ますことが出来たら

どんなに幸いでしよう

主よ

あなたがお与えくださった

これらの賛美の歌草を通して

十字架の尊い意味を学んで

死に向かうたつた一つの魂でも

永遠のいのちを纏まとつて

御名を讃えることが出来たら

どんなに幸いでしよう

主よ

これらの賛美の歌草を通して

あなたがお約束くださつた

御国の素晴らしさを思いめぐらし

打ち萎れたたつた一つの魂でも

生きる喜びを回復して

平安を楽しむことが出来たら

どんなに幸いでしよう

主よ

これらの賛美の歌草を通して

あなたの聖徒たちのたつた一人でも

真まことのいのちの泉の流れに憩やすらい

あなたの全つたき模範に従つて

御国への歩みを確かにして

役立つ大使となることが出来たら

どんなに幸いでしよう

イエス様のおかげで

愛されているのです

イエス様が十字架の上で

あんなに苦しんで死なれるほど

愛されているのです

保証されているのです

永遠の交わりの恵みが待つ

父のみもとに帰る幸いを

保証されているのです

赦されているのです

あの激しいイエス様の御苦しみで

罪の負債を払っていただいて

赦されているのです

生かされているのです

イエス様が全能の御力で

夜も昼も働いておられるので

生かされているのです

繋がるために

絆めき合い

けたたましく叫び合い

みんな繋がっているはずなのに

何も繋がっていない

繋がりが合うことを求め

みんな血の通う確かな繋がりを

夢見ているのだが

繋がれない

そんなつもりはないのに

繋がりを破壊して

人は悲しみの中へ入って行く

繋がれるもとは何だ

繋がれて逃ることを

邪魔する奴は誰だ

こいつと繋げようとする方との

全てが戦いだ

世界の深さは

繋ぐためにすべてを投げうって

十字架に釘づけられた方の

戦いの激しさだ

尊き主との

釣り合わぬ軛に連なる幸いを想いて

釣り合わぬ

軛くまきいに入りて

主の恵み数える幸を

何に譬えん

依り頼む

吾を包みて

心安し

衣の如く守る愛の主

吾が魂たまよ

贖あがない成れり

限りなき主の大空に

恵みたずねむ

目醒めたる

心を待ちて

「わが業の器となれ」と

招く主の声